

「キンモクセイの実が来た！(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(1) 約束を覚えてくれていた3年生の子ども

数日前の朝、私のクラスの3年生の娘が、R1(乳酸菌飲料)の空き容器に何か入れて持ってきた。きっと、また何かの幼虫かサナギだろう、と思った。

「えっとー、あの一、先生、こないだ約束した、池袋の並木のね・・・立教大学のとこのキンモクセイ、ちょっと通ったから、ママとさがしたら、実っぽいのがあったから・・・。これって、やっぱりキンモクセイの実になるわけですか？」



この子は、時々池袋の立教大学の近くに行く用事があるようで、私が授業でキンモクセイの話をした時に、立教大学の通りにキンモクセイの並木があることを話してくれたのだ。私はその並木に雌株があることを別の方から聞いていたので、その子に「今度行ったら、実がなっていないか見てきてくれる？」と頼み、「はい、わかりました」と約束してくれたのだ。

実はその後、私はその約束をすっかり忘れてしまっていた。しかし、この子はしっかり覚えていて、その並木を通った時に、母親と一緒に探してくれたのだ。本当に有難く、嬉しい出来事である。

見れば、小さなユスラウメのような果実が入っている。私はキンモクセイの果実の実物を見たことがなかったので、瞬時には本物かどうか同定できなかった。

(2) キンモクセイの実だろうか？



R1の容器の底には、大小十個ほどの果実が入っている。形はオリーブの実に似ている。似ているのは当然で、キンモクセイもオリーブも、同じ仲間(モクセイ科、オリーブ連 *Oleeae*)に属するのだ。持ってきてくれた子は、容器ごと寄付してくれるというので、さっそく取り出して観察してみることにした。



果実は大小合わせて12個あった。一番小さいものは1.5mmほど、最大のものは15mmほどある。同時に受粉したにしては、大きさにかなりバラツキがある。この実がなったキンモクセイは、今年「二度咲き」をしたことを確認している。大きさにこれだけ差があるのは、恐らく二度咲きが原因だろう。大きいものは、1回目に咲いた雌花由来、小さいものは2回目に咲いた雌花由来と考えられる。

匂いも嗅いでみたが、かすかに草のような匂いがするだけで、特徴的な芳香や臭気は感じなかった。